

佳作

あなたがいて良かった

滋賀県 大津市立打出中学校二年 三宅 胡実

去年の正月に、私は石川県にある祖父母の家で年を越しました。母や祖母が晩御飯を用意している中、私と妹は祖父と一緒に掛けました。すると突然スマホの警戒音が鳴り響きわたり、気付いた時には大きな揺れが始まりました。私は何をしたらよいのか分からず、その場でしゃがみ込んでしまいました。避難所へ向かう中、もう母や友達と一生会えなくなるのではないかと心の中で恐怖と不安に襲われました。

避難所へ着いて、やっと母たちと合流できて少し安心できました。ですが、ここでは電気や水道が止まっていて、自分は体験したことが無かったので、本当にこのようなことが起こるんだと驚愕しました。沢山の人が不安と寒さでいっぱいでした。そんな中、一人の若い男性が避難してきた人たちに「毛布を一枚ずつ配りますね」と声をかけて配っていま

した。それに気付いた何人かの人たちも全員に水を配っていたり、一人で動くことができない人に付き添っていて、本当に自分から動けるのがすごいと思いました。彼らは、自治体の人でもスタッフでもありません。彼ら自身も避難してきた中の一人です。それなのに、周りの人、一人一人に気を配っている姿を見て「すごいな、こんな方が本当にいるんだな」と思いました。実際に自分の目で見たのは初めてだったので、私は心に響きました。

もし、今回の出来事が自分にできるのかと考えてみたら絶対に自分から動き出せる勇気がなかったり、自分のことで一生懸命になってしまっている。だけど、彼らを見て私は「自分から動ける人」になりたいと思いました。誰かに言われてから動く場合と、自分から動く場合では自分から動く場合のほうが、私は人生が充実すると思います。そんな人がいるだけで、あの場はどれだけ変わったのかをこの目で知ることができたからです。

今回で私は、ほんの少しの優しさと勇気で沢山の人の安心が得られることを彼らから学びました。

もう起こってほしくない災害ですが、そんなとき私は「誰かを待つのではなくてその誰かに私はなりたい」ということを意識して、行動できるようになり

たいです。そして、彼らのように「あなたがいて良かった」と思ってもらえるような存在でありたいです。